

令和3年12月17日

国土交通省 中国地方整備局長

多田 智 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長 関根 雅彦

灰塚ダム定期報告書の総括について

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会は令和3年12月17日に灰塚ダムに関する定期報告の審議を行い、下記10名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

記

氏名	役職	専門分野等
井上 卓也	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授	河川工学
海野 徹也	広島大学大学院 統合生命科学研究科 教授	魚類
清家 泰	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 客員教授	水質
関根 雅彦	山口大学大学院 創成科学研究科 教授	水質
田原 博	日本野鳥の会 島根県支部 支部長	動物(鳥類)
鶴崎 展巨	鳥取大学 名誉教授	動物
中越 信和	広島大学 名誉教授	植物
三輪 浩	鳥取大学 工学部 教授	河川工学
山田 知子	比治山大学 現代文化学部 教授	社会環境
吉田 圭介	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授	河川工学

- 「第32回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「灰塚ダム定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の6項目について、平成28年度から令和2年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下の通りである。

1. 「防災操作」

評価期間である平成28年度から令和2年度の間に、計5回の洪水が発生した。これらに対して必要な操作を行い、所期の機能を發揮している。今後も気候変動の影響によって、豪雨の頻発・激甚化が懸念されており、ダムの効果を最大限発揮できるよう、引き続き事前放流等の適切な運用を含む防災操作を行われたい。

なお、防災操作の効果について、過年度との整合性を含めて確認されたい。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後もダムを適切に管理・運用し、ダム下流域への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

管理上の問題は生じていない。今後も適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況を把握されたい。

4. 「水質」

利水上の影響は生じていないが、アオコの発生が継続しており、今後水質障害が生じる可能性があることも考えられる。これらを考慮し、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続するとともに、巡視などの日常管理を通じて水質状況の把握を継続的に取り組まれたい。

また、アオコ対策については現在の水質保全対策ではアオコ抑制が十分ではないため、アオコの発生状況を詳細に把握するために必要な調査・検討を行い、施設の配置や改良など適切な運用によるアオコ対策を計画的に推進されたい。

5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は見られていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育環境の把握に努められたい。

保全対策については、河川水辺の国勢調査等の調査に加え、日常的な維持管理を通じて効果の継続的な発現に取り組まれたい。

また、オオクチバスやブルーギルなどの外来種対策は関係機関と連携しながら推進されたい。

加えて、ウェットランドの効果については、当初の設置目的を踏まえて調査検証を行われたい。

6. 「水源地域動態」

灰塚ダムが果たす治水・利水・環境の役割について、ダム下流地域への貢献状況が地域に理解されるような「ダム管理の見える化」を促進されたい。

また、地域とダム管理者との関係性が変化してきているため、新型コロナウィルスにより停滞した地域活性化活動の状況を踏まえながら地域とダムとの関係性を再構築されたい。

以上